

|               |  |       |               |
|---------------|--|-------|---------------|
| 派遣者番号         | R7K06  | 氏名    | 町田 洋子         |
| 研究主題<br>—副主題— | 教科の特質を生かした道徳科授業の普及に向けて<br>—指導教諭としての模範授業の在り方に関する研究— |       |               |
| 派遣先大学         | 帝京大学大学院  | 指導担当者 | 建部 豊<br>赤堀 博行 |
| 所属            | 台東区立根岸小学校  | 所属長   | 小西 祐一         |

キーワード：教科の特質を生かした道徳科授業の普及 指導教諭の模範授業 質的転換と質的充実

要旨：本研究は、教科の特質を生かした道徳科授業を普及させるために、指導教諭による模範授業の在り方を追究したものである。調査研究により、参観者は具体的な指導技術に加え、授業者の意図や教材研究の過程を求めている実態が明らかになった。これに基づき実践研究では、道徳科の特質（道徳的価値の理解、自己を見つめる、多面的・多角的に考える、自己の生き方についての考えを深める）を具体的な学習活動と関連付けた指導案や授業チェック表を示した。さらにオンデマンド動画配信を導入し、指導案だけでは伝わりにくい「問い返し」や意見の受け止め方を共有した。その結果、参観者が理論と実践を具体的に結び付けて理解を深めることができ、授業改善の意欲向上に寄与した。成果として、指導教諭は実践者であると同時に、研修企画者としての視点をもつ重要性が示された。今後は、組織的な支援体制の構築や協議会におけるファシリテーション力の向上が課題である。

# 教科の特質を生かした道徳科授業の普及に向けて

## —指導教諭としての模範授業の在り方に関する研究—

町 田 洋 子

帝京大学大学院教職研究科 スクール・リーダーコース

教科の特質を生かした道徳科授業の普及 指導教諭の模範授業 質的転換と質的充実

### 1. 研究主題の設定と研究の目的

#### (1) 研究の背景

道徳の教科化から小学校は7年（中学校は6年）が経過したが、中央教育審議会の報告等では、依然として特定の読み物教材の心情理解に偏った授業や、教科書の発問に頼った予定調和的な授業が散見されると指摘されている<sup>1)</sup>。このように、「考え、議論する道徳」への質的転換は道半ばと言える現状がある。その背景には、教員自身の教科の特質への理解不足や、専門的な助言を得られる環境の欠如があると考えられ、教科の特質を生かした道徳科授業の推進は喫緊の課題となっている。

一方、東京都の指導教諭は、高い専門性と授業力を生かし、年3回程度の模範授業等を通じて授業技術を普及させる役割を担っている<sup>2)</sup>。しかし、その模範授業の内容は個人の裁量に委ねられている現状がある。また、指導教諭同士がつながる機会も少なく、経験年数やニーズが異なる多様な参観者に対して「何を伝えれば効果的な推進につながるか」を、指導教諭自身も模索しながら実施しているという課題がある。

#### (2) 主題設定の理由

指導教諭である筆者自身が、実態把握に基づき模範授業の内容を充実させることは、東京都の道徳教育を推進するための実行可能な方法の一つであると考えた。指導教諭が自らの授業改善に努め、参観者の抱える悩みの解決に役立つ「教科の特質に合った模範授業」を行うことができれば、参観者の指導力向上と、教科の特質を生かした道徳科授業の普及に寄与できると

考え、本主題を設定した。

#### (3) 研究の目的と仮説

本研究の目的は、模範授業の内容を検討・充実させることを通して、参観者の指導力を向上させ、教科の特質を生かした道徳科授業を普及させることである。この目的を達成するために、以下の手順で研究を進めた。

##### ①文献研究

教科の特質を生かした道徳科授業を構想するために、道徳教育の変遷、道徳科の特質、学習指導案の在り方についての理解を深める。

##### ②調査研究

道徳科の指導教諭や道徳教育推進教師等を対象に実態調査を行い、道徳科の指導教諭の模範授業に対する実態を把握する。

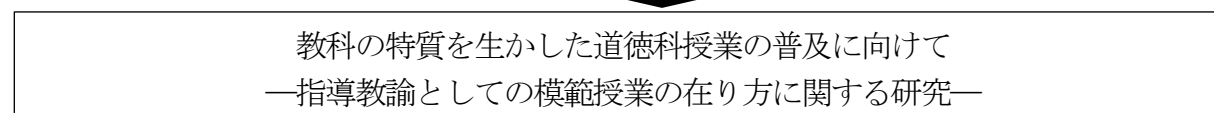
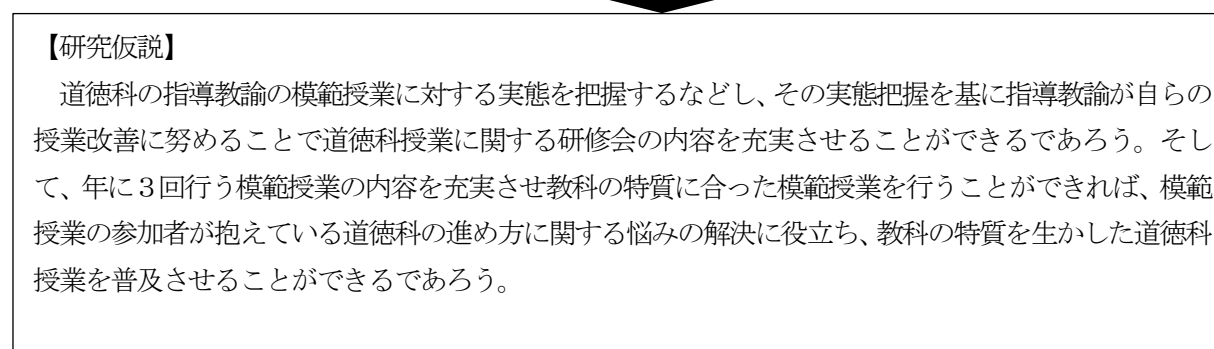
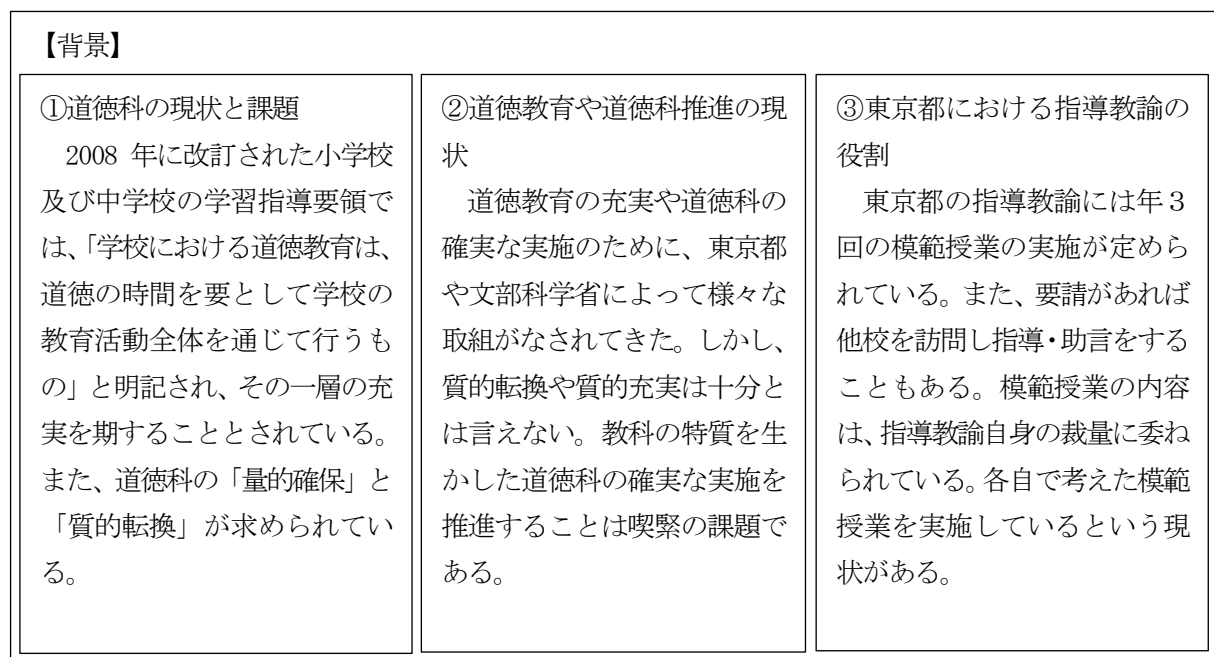
##### ③実践研究

②の調査研究の結果を反映した研修会（模範授業・協議会）を実践し、指導教諭としての模範授業の在り方を追究する。

本研究の研究仮説を、「道徳科の指導教諭の模範授業に対する実態を把握し、その実態把握を基に指導教諭が自らの授業改善に努めることで道徳科授業に関する研修会の内容を充実させることができるであろう。そして、年に3回行う模範授業の内容を充実させ教科の特質に合った模範授業を行うことができれば、模範授業の参加者が抱えている道徳科の進め方に関する悩みの解決に役立ち、教科の特質を生かした道徳科授業を普及させることができるであろう。」と設定した。

## 2. 研究の構想及び経過

### (1) 研究構想図



|      |  |
|------|--|
| 文献研究 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の変遷</li> <li>・変化する社会と道徳教育</li> <li>・道徳科の特質</li> <li>・道徳科の学習指導案</li> <li>・指導教諭自身が授業構想を行う際に活用するシートの作成</li> </ul>                         |
| 調査研究 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の指導教諭を対象にした実態調査（東京都の特別の教科 道徳の指導教諭 11名に依頼）</li> <li>・校務分掌で道徳に関する役割を担っている教員を対象にした実態調査（筆者が担当しているエリアにある3区の小学校全76校に依頼）※Webアンケートにて実施</li> </ul> |
| 実践研究 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態調査の結果を反映させた道徳科授業に関する研修会の計画（参観者への配布物の検討、研修会の内容の検討を含む）</li> <li>・道徳科授業に関する研修会の実施（所属校の2年生、4年生、6年生の学級で実施。）</li> </ul>                        |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のまとめ</li> </ul>  |

(2) 研究の経過

本研究の経過の概要は以下の通りである。

| 月   | 研究方法        | 研究内容  |
|-----|-------------|---|
| 4月  | ○研究主題の検討・設定 | ○課題研究計画書の作成、発表、修正   |
| 5月  | ○基礎研究       | ○文献調査   |
| 6月  |             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道德教育の変遷に関する文献調査</li> <li>・ 道德科の現状や課題に関する文献調査</li> <li>・ 道德科や道德教育推進のための取組に関する文献調査</li> <li>・ 東京都における指導教諭の役割に関する文献調査</li> <li>・ 道德科の特質に関する文献調査</li> <li>・ 道德科の学習指導案についての文献調査</li> <li>・ 担当指導教員が講師を務める道德科の授業研究会への参加</li> </ul>  |
| 7月  | ○調査研究       | ○実態調査の実施方法や対象、調査の内容についての検討  |
| 8月  |             | <ul style="list-style-type: none"> <li>○担当エリアにある3区の小学校の道德教育推進教師及び道德主任等を対象とした実態調査の実施</li> <li>○東京都の道德科指導教諭を対象とした実態調査の実施<br/>(いずれの調査も Web アンケートにてにより実施)</li> </ul>  |
| 9月  | ○課題研究中間発表会  | ○課題研究計画書の見直し、発表、修正  |
| 10月 | ○実践研究準備     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○所属校にて、道德科授業に関する研修会を行う学級の決定</li> <li>○実態調査結果の分析</li> <li>○道德科授業に関する研修会の実施方法や内容についての検討</li> <li>○授業チェックシートの内容や活用方法についての検討</li> <li>○学習指導案の作成 (全12回分)</li> <li>○道德科授業に関する研修会に向けて、道德科授業の実施 (全9回中6回)</li> </ul>  |
| 11月 | ○実践研究       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○道德科授業に関する研修会に向けて、道德科授業の実施 (全9回中3回)</li> <li>○道德科授業に関する研修会実施 (全3回) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道德科授業に関する研修会① (第2学年)</li> <li>・ 道德科授業に関する研修会② (第6学年)</li> <li>・ 道德科授業に関する研修会③ (第4学年)</li> </ul> </li> <li>○動画による参加者に向けての配信準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業動画の編集</li> <li>・ 配布資料の編集</li> <li>・ 配信の御案内の送付</li> </ul> </li> <li>○道德科授業に関する研修会参加者の感想の分析</li> </ul> |
| 12月 | ○課題研究報告書仮提出 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○道德科の指導教諭の模範授業の在り方を視点とした成果及び課題の精査</li> <li>○課題研究報告書の作成</li> </ul>  |
| 1月  | ○課題研究報告書提出  | ○課題研究報告会に向けての準備   |
| 2月  | ○課題研究報告会    |   |

### 3. 文献研究

#### (1) 道徳教育の変遷（1951年～2008年）

戦後の道徳教育は、1951年の「学校の教育活動全体を通じて行う」方針から始まり<sup>3)</sup>、1958年に各教科の指導を「補充、深化、統合」する役割として「道徳の時間」が特設された<sup>4)5)</sup>。その後、指導の重点は「日常生活の基本的な行動様式」の習得から「児童の内面に根ざした道徳性」の育成へと移行し、2008年には「自己の生き方についての考えを深める」ことが目標に加わった<sup>6)7)8)</sup>。また、指導体制も教員個人の資質に委ねる形から、校長の方針の下で「道徳教育推進教師」を中心に組織的に取り組む体制へと変容してきた<sup>9)10)</sup>。

#### (2) 道徳の時間を「特別の教科 道徳」として位置付けた背景

道徳の教科化は、2000年の教育改革国民会議以降、長らく議論されてきた<sup>11)</sup>。2015年の一部改正により「道徳科」として位置付けられた背景には、いじめ問題への対応や、指導の「量的確保」と「質的転換」を確実にするという目的がある<sup>12)13)14)</sup>。これにより、全ての学校で一定水準の授業が行われるとともに、読み物教材の心情理解に偏らない「考え、議論する道徳」への転換が求められた。

#### (3) 道徳科の特質

学習指導要領解説において、道徳科の特質は主に以下の3点に集約される。

##### ・道徳教育の「要」としての役割

教育活動全体を通じて行う道徳教育の扇の要として、他の活動での指導を「補充、深化、統合」し、学校教育全体で行う道徳教育の充実を図る。

##### ・内面的な道徳性の育成

多面的・多角的な思考を通じて、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める学習を重視する。

##### ・「考え、議論する道徳」への転換

教材の読み取りや特定の価値観の押し付けを排除し、答えが一つではない課題に対して、児童が自律的に考え続ける姿勢を養う<sup>15)</sup>。

#### (4) 道徳科の学習指導案

道徳科の学習指導案は、道徳科の特質を生かした学習を効果的に達成するための構想を示すものである。

##### ・作成手順

ねらいの検討（指導の意図の明確化）、指導の重点の明確化、教材の吟味、学習指導過程の構想という手順を経て作成する。

##### ・道徳科の特質を生かした学習指導過程の展開

導入で問題意識をもたせ、展開で道徳的価値の理解の下に多面的・多角的な思考や自己を見つめることを促し、終末で今後の生き方へとつなげる構成が求められる。

##### ・指導の工夫

問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習などの多様な方法を取り入れるとともに、自分の考えを整理するための言語活動の充実を図ることが重要である<sup>16)</sup>。

### 4. 調査研究

調査研究は、参観者側（道徳教育推進教師等）と指導側（指導教諭）の双方の指導教諭の模範授業に対する実態を把握するために実施した。

#### (1) 調査①（道徳教育推進教師・道徳主任等を対象とした実態調査）

北区・荒川区・台東区の全小学校76校の道徳教育推進教師や道徳主任等を対象に調査を行い、37名から回答を得た。

調査項目は、全6項目で作成した。各調査項目の内容は以下の通りである。

| 調査項目 <sup>17)</sup> |  |
|---------------------|--|
| 設問1                 | 校内での役割                                   |
| 設問2                 | 経験年数                                     |
| 設問3                 | 特別の教科 道徳の進め方で課題に感じていること                  |
| 設問4                 | これまで特別の教科 道徳の指導教諭の模範授業もしくは公開授業を参観したことの有無 |
| 設問5                 | （「ある」の場合は）参観した理由                         |
| 設問6                 | 指導教諭の模範授業や公開授業に期待すること                    |

調査①の結果から、以下のような実態が明らかになった。

・対象者の実態

道徳教育推進教師と道徳主任を兼務しているケースが多く、経験年数は1年から38年までと全キャリア層にわたっている。

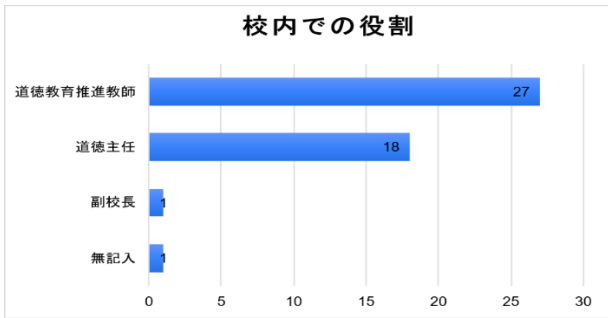


図1 校内での役割

|      |   |      |   |      |   |      |   |
|------|---|------|---|------|---|------|---|
| 1年目  | 1 | 11年目 | 3 | 21年目 | — | 31年目 | — |
| 2年目  | 1 | 12年目 | 3 | 22年目 | 1 | 32年目 | 1 |
| 3年目  | 2 | 13年目 | 1 | 23年目 | — | 33年目 | 1 |
| 4年目  | — | 14年目 | 4 | 24年目 | 1 | 34年目 | — |
| 5年目  | 2 | 15年目 | — | 25年目 | 1 | 35年目 | — |
| 6年目  | 1 | 16年目 | 2 | 26年目 | — | 36年目 | — |
| 7年目  | 1 | 17年目 | — | 27年目 | — | 37年目 | — |
| 8年目  | 1 | 18年目 | 1 | 28年目 | — | 38年目 | 1 |
| 9年目  | — | 19年目 | 3 | 29年目 | — | 39年目 | — |
| 10年目 | 2 | 20年目 | 3 | 30年目 | — | 40年目 | — |

図2 経験年数

・指導に関するニーズ

「考え、議論する道徳」の進め方に困難を感じており、「発問の工夫」や「話し合いの工夫」といった、明日からすぐに使える具体的な指導方法を学びたいというニーズが圧倒的に高い。

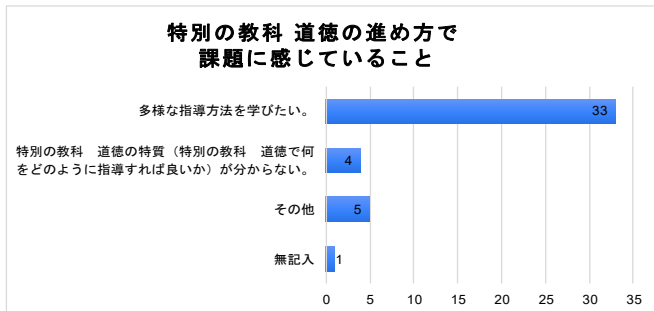
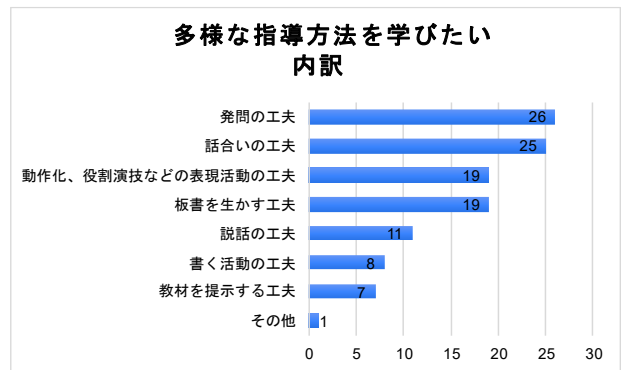


図3 特別の教科 道徳の進め方で課題に感じていること

図4 多様な指導方法を学びたい 内訳



・模範授業の活用状況

指導教諭の模範授業を参観した経験がある者は約6割に留まっており、専門性を普及させるための制度が十分に活用されていない現状が明らかになった。

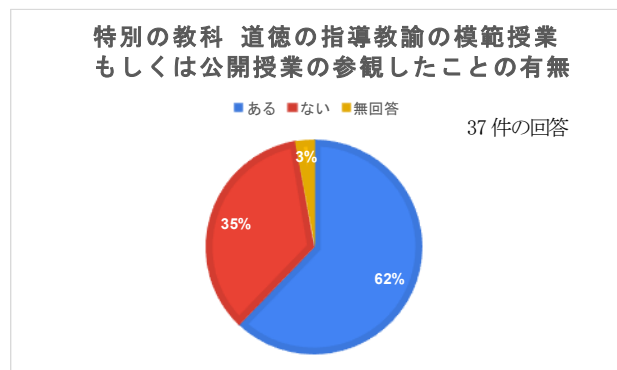


図4 特別の教科 道徳の指導教諭の模範授業もしくは公開授業の参観したことの有無

・期待する内容

学習指導案だけでは読み取れない授業者の意図や教材研究の過程、問い返しの技術などの共有が求められている。

(2) 調査② (道徳科指導教諭を対象とした実態調査)

東京都の道徳科指導教諭 (筆者を除く 11 名) を対象に調査を行い、9名から回答を得た。

調査項目は、全4項目で作成した。各調査項目の内容は以下の通りである。

| 調査項目 <sup>18)</sup> |                                    |
|---------------------|------------------------------------|
| 設問1                 | 模範授業に参加した人の目的 (参加者のニーズ)            |
| 設問2                 | 模範授業を行う際に心がけていることや意識していること         |
| 設問3                 | 模範授業を行う際に課題に感じていること                |
| 設問4                 | 指導教諭の模範授業や公開授業の運営に関することで課題に感じていること |

調査②の結果から、以下のような実態が明らかになった。

・指導教諭の意識

模範授業において「道徳科の特質を押さえること」を最も重視しており、参観者が求める具体的な技術を教科の本質的な理解と関連付けようと努めている。

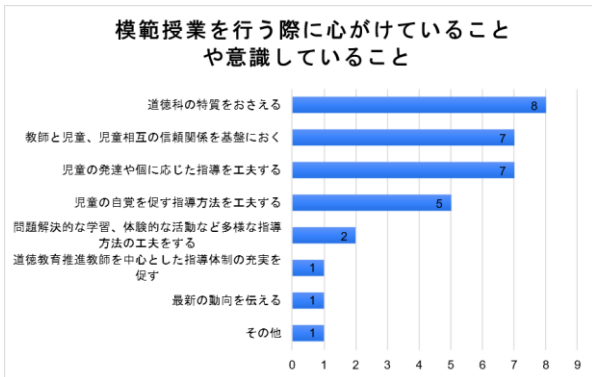


図6 模範授業を行う際に心がけていることや意識していること

こと

・運営上の課題

質の高い授業を公開するだけでなく、参観者のニーズを事前に把握することや、協議会での議論を深めるための運営、さらには研究成果を地域へ広める方法など、「研修企画者」としての役割に大きな負担や難しさを感じていることが明らかになった。

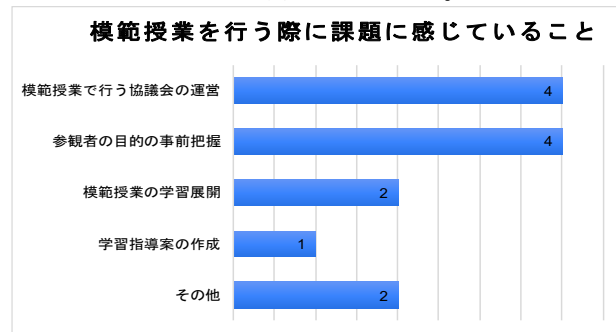


図7 模範授業を行う際に課題に感じていること

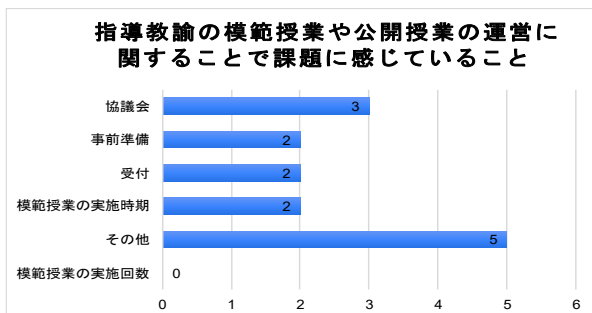


図8 指導教諭の模範授業や公開授業の運営に関することで

課題に感じていること

(3) 調査研究のまとめ

両調査の結果から、以下の点が明らかになった。

・参観者のニーズと指導教諭の思いの両立

参観者が求める「具体的な技術」と、指導教諭が重視する「教科の特質」を効果的につなぐ模範授業の在り方が求められている。

・環境整備の必要性

多忙な教員が他校の授業を参観しにくい実態があるため、日程調整の工夫やオンデマンドによる動画配信など、時間的制約を克服して学び合える仕組みづくりが必要である。

・組織的支援の重要性

指導教諭個人の裁量や特定の自治体任せにするのではなく、管理職の協力や研修制度との連携など、組織的な支援体制を構築することが重要である。

5. 実践研究

(1) 実施目的と計画

実践研究の目的は、教科の特質を生かした道徳科授業を普及させるために、公開授業と協議会で構成される研修会の効果的な在り方を明らかにすることである。調査研究の結果を踏まえ、多忙な教員の参加を促すため、対面での研修に加え、オンデマンドによる授業動画や学習指導案、授業チェック表(図9)等の共有を行った。また、授業者と児童の信頼関係を構築し児童理解を深めるため、研修会本番の前に、各学級で計3回の事前授業を実施した。

授業チェック表 (2025年5月28日「荒川区立第六福光小学校 校内研究会 赤福博行先生講演資料」より)

| 学習活動                                  | 道徳科の特質     |      |      | 自己を見つめる | 多面的・多角的に考える | 自己の生き方についての考えを深める |
|---------------------------------------|------------|------|------|---------|-------------|-------------------|
|                                       | 道徳的価値を理解する | 価値理解 | 人間理解 |         |             |                   |
| <input type="checkbox"/>              |            |      |      |         |             |                   |
| <input type="checkbox"/> 指導案の第一稿を作成した |            |      |      |         |             |                   |
| <input type="checkbox"/> 段階で記入する。     |            |      |      |         |             |                   |
| <input type="checkbox"/>              |            |      |      |         |             |                   |

※全ての枠に○が入るように、指導案の第一稿を作成した段階で授業を見直し改善していく。

図9 授業チェック表

(2) 実践の内容と工夫

研修会は、小学校2年生、4年生、6年生の3学級で実施された。主な工夫は以下の通りである。

・道徳科の特質の可視化

文献研究で整理した「道徳的価値の理解」「自己を

見つめる」「多面的・多角的に考える」「自己の生き方についての考えを深める」という4点の特質を、学習指導案や授業チェック表の中で具体的な学習活動と結び付けて明記した。

- ・具体的な指導技術の提示

児童同士の対話を促進するために「コの字型」の座席配置を採用した。また、文字を追うのが苦手な児童への情報保障として、ICT（プレゼンテーションソフト）を活用した教材提示を行った。

- ・個別最適な学びへの配慮

日本語の理解が十分でない児童（中国語を母語とする児童）に対して、教材文のあらすじやワークシートの中国語訳を個別に配布するなどの合理的配慮を講じた。

- ・協議会の構成

協議会は、指導教諭からの説明、質疑応答、個別相談の三部構成とし、特定の価値観を押し付けないファシリテーターとしての姿を意識的に示した。

### （3）分析と考察

研修会参加者からの感想を分析した結果、以下の成果が確認された。

- ・道徳科の特質の理解の促進

学習指導案やチェック表で「どの活動がどの特質に対応するか」を明示したことにより、参観者が理論と実践を具体的に結び付けて理解することを促した。

- ・動画配信の有効性

学習指導案や記録だけでは読み取ることが難しい「問い返し」の技術や「児童の発言の受け止め方」、「間の取り方」を共有する手段として、動画配信が非常に有効であった。

- ・具体的技術への高い関心

参観者は理論だけでなく、発問、板書、座席配置、ICT活用などの「明日からすぐに使える技術」を求めており、これらを教科の本質的な理解とセットで提示することの重要性が示された。

- ・児童の学び（学習状況）の変容

教員が誘導や押し付けをしなくても、児童が「自分事」として深く考え、自身の経験を語り出す姿が見られ、これには授業者と児童の信頼関係の構築が不可欠

であることが再確認された。

### （4）小括

実践研究を通じて、指導教諭が教科の特質を学習指導案に明示し、具体的な指導技術（座席配置、ICT、問い返し等）と理論を関連付けて公開することが、参観者の指導力向上に資することが明らかになった。一方で、一度の参観で普及させることには限界があり、組織的な支援体制や、参観者のニーズに合わせたテーマ設定（発問や板書に特化するなど）の検討が今後の課題として明らかになった。

## 6. 成果と今後の課題

### （1）研究の成果

本研究の実践を通じて得られた成果は、以下の4点である。

- ・教科の特質を生かした授業構成と技術の伝達

学習指導案に、どの学習活動が「道徳的価値の理解」「自己を見つめる」「多面的・多角的に考える」「自己の生き方についての考えを深める」という道徳科の特質に対応するかを明記したことが、参観者の理論と実践の結び付きを深めるのに有効であった。また、コの字型の座席配置やICT（プレゼンテーション）を活用した教材提示などの具体的な指導技術を効果的に伝達できた。

- ・主体的な対話と本音を引き出す手立ての提示

教員が誘導や押し付けをしなくても、児童が学習内容を「自分事」として深く考え、自然発生的に協働する姿を示すことができた。特に生命を扱う授業において、児童が自らの経験を率直に語り出す場面が見られたことは、教員と児童の信頼関係構築の重要性を伝える機会となった。

- ・多忙な教員に対応した研修形態の有効性

オンデマンドによる動画配信は、多忙な教員の参加を支援するだけでなく、学習指導案では読み取ることができない「問い返し」や「児童の発言の受け止め方」、机間指導時の声掛けといった細かな技術を共有する手段として非常に有効であった。

- ・参加者の意識とモチベーションの向上

模範授業は、東京教師道場のリーダー等の指導的立場にある教員にとっても有意義な学びの機会となり、道徳科授業に対するモチベーション向上に寄与した。

## (2) 今後の課題

本研究の実践を通じて明らかになった今後の課題は、以下の5点である。

### ・継続的な普及活動の必要性

道徳科の特質を生かした授業は、一度の参観で普及できるものではないため、指導教諭が常に授業を実践・公開し続け、それを参観者が自校の教員に伝達するというサイクルを繰り返すことが重要である。

### ・組織的な支援体制の構築

授業改善を指導教諭個人や所属校等に一任するのではなく、他の研修との連携や招集方法の改善など、東京都全体としての支援システムを構築する必要がある。

### ・参観者のニーズへの対応

参観者が求める「具体的な指導技術」に応えるため、申込時に学びたい内容を事前に把握する手だてや、「発問」「板書」など特定のテーマに焦点を絞った授業展開を検討する必要がある。

### ・ファシリテーション力の向上と伝達

「考え、議論する道徳」を推進するため、教員一人一人のファシリテーション力（問い返しや受け止め方）を向上させる支援が必要である。また、協議会自体も、参加者が主体的に考え、議論する場とするための研修企画者としての運営能力の向上が求められる。

### ・指導教諭自身の自己研鑽

参観者からの肯定的な評価に甘んじることなく、指導教諭としての職責を果たすために、絶えず自己研鑽に努め、高い指導力を維持し続けることが不可欠である。

(2026.1.28 閲覧)。

- 2) 東京都教育庁人事部. 『指導教諭マニュアル (指導教諭の職務について)』, 2023.
- 3) 文部科学省. 学習指導要領 一般編 - 試案 - (抄) (昭和二十六年七月一日), [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/others/detail/1318004.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318004.htm) (2026.1.28 閲覧).
- 4) 文部科学省教育課程課幼児教育課. 『「特別の教科道徳」の実施に向けて』, 東洋館出版社, 2015.
- 5) 文部省. 『小学校学習指導要領』, 1968.
- 6) 前掲書 4)
- 7) 文部省. 『小学校学習指導要領』, 1998.
- 8) 文部科学省. 小学校学習指導要領, 2008. [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/newcs/youryou/syo/dou.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/newcs/youryou/syo/dou.htm) (2026.1.28 閲覧).
- 9) 前掲書 4)
- 10) 前掲書 8)
- 11) 赤堀博行. 『「特別の教科道徳」で大切なこと』, 東洋館出版社, 2017.
- 12) 前掲書 11)
- 13) 前掲書 11)
- 14) 教育再生実行会議. いじめの問題等への対応について (第一次提言), 2013. [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/096/shiryo/\\_icsFiles/afieldfile/2013/04/11/1333167\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/096/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2013/04/11/1333167_01.pdf) (2026.1.28 閲覧).
- 15) 文部科学省. 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別の教科道徳編』, 東洋館出版社, 2015.
- 16) 前掲書 15)
- 17) 前掲書 15)
- 18) 前掲書 15)

## 7. 引用・参考文献

- 1) 教育課程部会道徳ワーキンググループ. 道徳教育に関する現状・課題と検討事項, 2025 [https://www.mext.go.jp/content/20251121-mxt\\_kyoiku01-000046037\\_15.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20251121-mxt_kyoiku01-000046037_15.pdf)